

日本原子力学会 炉物理部会 第 58 回全体会議 議事録

日時： 2023 年 3 月 13 日（月） 12:05-12:55

場所：日本原子力学会 2023 年春の年会 K 会場(13 号館 2F 1322)

参加者：40 名前後

【審議事項】

1. 令和 4 年度決算と令和 5 年度予算について

資料 58-01、58-02 を用いて、財務小委員会担当幹事より、令和 4 年度決算と令和 5 年度予算案について報告され、承認された。

C：繰越金を用いることに対する懸念を学会事務局から受けたため、令和 5 年度では、旅費補助は一人 4 万円、参加費補助は一人 1 万円に減額し、繰越金を用いない予算とした。

C：令和 4 年度の予算では、炉物理ロードマップに関する打ち合わせのための運営会議旅費として 8 万円を計上していた。炉物理ロードマップの打ち合わせをオンラインで実施する場合は、運営会議旅費は不要となる。

C：炉物理部会は ICNC2023 の共催団体となるが、ICNC2023 の予算は炉物理部会の予算とは別である。

C：炉物理部会の常置委員会での諮問にかかる活動であれば、予算の用途として認められると思われる。

C：現状繰越金の使用用途はほとんどが旅費補助であるが、他の使い方も考えるべきではないか。アンケート形式で部会員に意見を募る等、アイデア出しの活動も必要である。

2. 令和 5 年度運営小委員会について

資料 57-03 を用いて、北田部会長より令和 5 年度の運営小委員会の体制が紹介され、承認された。

【報告事項】

3. 第 10 回炉物理専門研究会報告

資料 57-04 を用いて、長岡技科大 竹澤先生より、2022 年 12 月に実施された第 10 回炉物理専門研究会について報告された。

【審議事項】

4. 第 54 回炉物理夏期セミナーの準備

資料 57-05 を用いて、セミナー小委員会担当幹事より第 54 回炉物理夏期セミナーの開催計画について報告され、異論なく承認された。2023 年 8 月 28 日(月)~30 日(水)に、福島県ナショナルトレーニングセンターJ ヴィレッジにて開催される予定である。

5. 令和5年度部会企画セッション検討状況

資料 57-06 を用いて、学術交流小委員会担当幹事より、令和5年度の企画セッションについて案が紹介された。「5%超濃縮度ウランの臨界安全(革新炉燃料のサプライチェーン確立に向けて)」をテーマとして検討している。臨界安全に加え、サプライチェーンも含めた幅広いテーマとして検討している。

【報告事項】

6. 炉物理の研究（部会報）の準備状況

資料 57-07 を用いて、編集小委員会担当幹事より炉物理の研究（部会報）の準備状況が報告された。部会報(第75号)を準備しており、3月中にオンライン発行予定である。また、著作権を明確にするため、部会報を掲載する Web サイトにおいて、著作権は原著者が有することを明記する予定である。

7. ICNC2023 の準備状況

資料 57-08 を用いて、JAEA 須山氏より ICNC2023 の準備状況が報告された。2023年10月1日から6日にかけて仙台国際センターで開催される。総投稿数は260である。スポンサー料は目標の100万円を十分に超える予定であり、黒字化の目処が立った。

8. 炉物理夏期セミナーと炉物理専門研究会の実施方法について

北田部会長より、2024年度以降に、炉物理専門研究会と炉物理夏期セミナーにて実施される若手発表会を統合する案が紹介された。今後、メール等で意見を募り、検討を進める予定である。

9. 2023年のRPHAの実施について

学術交流小委員会担当幹事(RPHA担当)より、次回RPHAの開催国である韓国にて、2023年のRPHAを韓国原子力学会のスペシャルセッションとして実施する案が検討されていることが紹介された。

C：RPHA19を実施した際には、担当者レベルで、今後のRPHAは1日のworkshop形式とする案が共有されていた。

【配布資料】

資料 58-01	令和4年度 炉物理部会予算及び実績
資料 58-02	令和5年度 炉物理部会予算案
資料 58-03	2023年度(令和5年度) 炉物理部会運営小委員会委員（案）
資料 58-04	第10回炉物理専門研究会の開催報告

- 資料 58-05 第 54 回炉物理夏期セミナー開催計画(案)
- 資料 58-06 2023 年秋の年会部会企画セッション検討状況
- 資料 58-07 編集小委員会活動報告(令和 4 年度)
- 資料 58-08 2023 年臨界安全性国際会議(ICNC2023)の準備状況

以上